

## 岐阜農林事務所の普及活動状況(令和8年5月)

### 新たな担い手の確保

#### ■ぎふトヨペット(岐阜市) 農業体験イベント「週末、ちょっと農家！」開催

5月10日、岐阜トヨペットホールディング株式会社は、岐阜ファミリーパーク西側に位置する自社農場において、農業体験イベント「週末、ちょっと農家！」を開催した。

本イベントは、アグリパーク重点推進モデル事業の一環として実施されたもので、岐阜城楽市や岐阜スーパースの試合会場、県庁マルシェ等で参加者を募集し、今回は、農業に関心のある6組9名の方が参加した。

当日は晴天に恵まれ、サツマイモの植え付け体験を実施した。はじめに品種や植え付け方法の説明を受けた後、参加者は実際の作業に取り組んだ。具体的には、70cm 間隔で穴を掘り、苗を斜めに植え、土をかぶせて押さえ、水やりまでの一連の工程を体験した。



【交流会の様子】

その後、機械による畝立てとマルチ張りの作業を見学し、夏秋なすの定植や支柱立ても行った。水やりの量やタイミングについて質問が出るなど、参加者の関心の高さがうかがえた。

また、参加者同士が交流しやすいよう、名前を書いたテープを胸に貼る工夫を行い、終始和やかな雰囲気の中でイベントが進められた。

次回は、6月28日(日)に夏野菜の栽培管理や草刈りを実施する予定である。農林事務所では、農業交流の促進と地域コミュニティの活性化を図るため、今後も多岐にわたる活動を支援していく方針である。

(地域支援第一係)

### 潜在力をフル活用した生産強化

#### ■にんじん・各務原市にんじん部会 優良品種選定や資材高騰対策に取り組む

各務原市では、5月7日から春夏にんじんの収穫が始まり、5月9日にはJ Aぎふ各務原にんじん選果施設も稼働を開始した。同市は、春夏にんじんと冬にんじんを出荷する全国でも珍しい二期作の産地である。

農林事務所では、にんじん部会のブランド推進員に任命されている生産者と連携し、これまで土壌消毒剤の活用や緑肥を活用した輪作により土壌病害の被害軽減に取り組むとともに、病害抵抗性のある品種の現地試験に取り組んできた。



【にんじん収穫の様子】

本年度も、さらなる品質向上を目指して、品種選定試験や低コスト肥料の実証試験に取り組んでおり、収穫時期に合わせて順次調査を実施している。

今後は、これらの調査結果をとりまとめ、優良品種の選定や生産コストの低減に向けた技術提案を行う予定である。

(地域支援第二係)

#### ■さといも・各務原市園芸振興会さといも部会 さといもの猛暑対策の実施

各務原市では、さといも栽培が盛んに行われているが、地球温暖化などによる栽培環境の変化により、従来の栽培方法からの見直しが迫られている。特に、近年の猛暑の影響により収量が減少しており、生産者の生産意欲の低下が課題となっている。

そこで、まずは生産者の意欲向上を図るため、これまで各生産者が自家採種していた種芋を、良品質な種芋品種「大和」に更新して栽培を開始した。

あわせて、猛暑対策について生産者・JA・農林事務所が連携して検討を行い、効果的な技術の実証および普及に取り組むこととした。

その一つとして、白色紙マルチが畝の中の地温を下げて収量が上がるのではないかという意見から、本年は慣行の黒色ビニールマルチと比較し、定植後から収穫までの地温を測定することになった。

農林事務所では、地温測定を継続しながら、黒色ビニールマルチと白色紙マルチのそれぞれのメリット・デメリットを把握し、栽培研修会等を通じて、試験の結果・猛暑時の対策・栽培技術に関する情報提供し、さといもの安定生産に向けた技術支援を進めていく。



【紙マルチでの栽培の様子】

(地域支援第二係)

### ■トマト・糸貫トマト振興会 ぎふ清流GAP勉強会の開催

糸貫トマト振興会は、岐阜管内における中心的な冬春トマト生産組織であり、若い生産者が多く「ぎふ清流GAP」の団体認証を取得している。GAPとは、安全な農産物を生産するために、食品安全や環境保全、労働安全などの分野において農業の改善を行う取組である。

5月8日、22日に、振興会の生産者9名を対象にぎふ清流GAPの更新に向けた勉強会を開催した。農林事務所から、GAPの各取組内容について説明を行い、その後、各生産者が自らの取組状況の振り返りを行った。



【勉強会の様子】

勉強会では、より高いレベルでの実践を目指し、農場内のリスク改善の内容や肥料の保管方法について議論が深められるなど、生産者同士の活発な意見交換が行われ、安全性や管理意識の向上が図られた。

今後も、農林事務所として、継続的に勉強会を開催し、GAPの取組を通じた高品質なトマト生産を支援していく。

(園芸産地支援第一係)

### ■切り花バラ・ぎふバラみどりの協議会 天敵を活用した防除検討会を開催

ぎふバラみどりの協議会では、5月22日に瑞穂市で開催された岐阜バラ会通常総会の機会に合わせ、切り花バラ栽培で問題となっているハダニ類の増加について、天敵導入による抑制の可能性を報告した。当日はバラ会会員を含む14名が参加し、総会終了後には情報交換会を実施した。会員からは、「一時的にハダニ類を抑えられたが、持続しなかった。」との意見が出るなど、天敵防除の難しさについて共有された一方、化学合成農薬の使用量を減らせる防除技術の確立への期待も示された。



【防除検討会の様子】

農林事務所では、ハダニ類の防除について一定の見通しは得られたものの、「防除の安定化には定期的な放飼が必要なこと」や「新たにアザミウマ類の対策が必要なこと」を今後の課題とし、安定した防除技術の確立に向けて実証を継続していくことを説明した。

(園芸産地支援第二係)